

名鉄資料館（岐阜県可児市）

中部の足として ―名鉄100年の歴史を展示―

社団法人中部開発センター

企画事業部 折戸 厚子

新しい観光のあり方“産業観光”が、中部圏において積極的に進められています。“産業観光”は、産業の内容を対象とする観光で、生活の中の商品・サービスが提供されるまでに、どのような歴史や技術があるのかを発見し、体験する知的好奇心にあふれた観光です。

具体的には、製造業の工場見学や、伝統産業の体験プログラム、企業博物館などがあげられます。こうした施設を訪ねる機会は、従来から社会見学や企業視察などがありましたが、特定の団体や目的に限らず、個人客や家族客などの一般観光客でも楽しめるよう門戸を広く開放していこうとするところに“産業観光”の特徴があります。

今回は、岐阜県可児市の「名鉄資料館」を紹介します。



実際に使われていたパンタグラフを展示

名古屋鉄道の創業百周年を記念して 開館

「名鉄」の略称で、中部の足として親しまれている名古屋鉄道株式会社は、1894年「愛知馬車鉄道」の設立から始まりました。その後、まもなく、「名古屋電気鉄道」と社名を改め、動力を馬から電気に変えて、1898年に、わが国2番目の電気鉄道の営業を笹島～県庁前間で開始しました。

太平洋戦争前の周辺鉄道会社との合併・統合を

経て現在の基盤が築かれ、今日では鉄道、バス事業を通してこの地方の交通の重要な担い手として大きな役割を果たすとともに、不動産、レジャー、百貨店と多彩な事業を展開しています。

この地域の歴史と密接に結びついた名古屋鉄道の創業100周年を記念して、1994年に開館したのが「名鉄資料館」です。

岐阜県可児市の名鉄教育センターに隣接し、主に平日に一般公開されています。（要予約）

名鉄100年の歴史を伝える 紙の資料を中心とした第一展示室

第一展示室は、時刻表、切符、辞令など主に文書類を中心とした展示になっています。名鉄OBから寄贈されたものも数多く、現在よりはるかにバラエティに富んだ切符類、初めての女性駅長の辞令など、眺めていると当時の社会の様子がリアルに感じられる興味深いものです。

「愛知馬車鉄道」の定款草案といった創業当時にまで遡る貴重な資料とともに、見学者の目をひくのは吉田初三郎による沿線案内図です。

大正から戦後にかけて、鉄道沿線を独自のパノラマ手法で描いた鳥瞰図で知られる吉田初三郎は、関東大震災に被災した後、名鉄の後援を受けて犬山に本拠を移し、当時「日本ライン」として売り出し中だった犬山周辺を題材にした作品を発表し、犬山観光のPRに大きく貢献した名鉄とゆ



日本ラインを中心とせる名古屋鉄道沿線名所図絵



合併した会社の乗車券

かりの深い画家です。

一枚の絵に驚くほどの情報を描き出した細かい描写と多彩な色使いが魅力で、近年、再び人気が高まっています。名鉄資料館には、彼の沿線案内図や、弟子の原画等が常設展示されており、人気コーナーの一つです。

実際に使用されていたパンタグラフ等の 部品展示

紙の資料が中心の第一展示室に対して、第二展示室では、駅や電車で、実際に使用されていた鉄道部品が並んでいます。パンタグラフや電話交換機などの大型の展示物や、出札箱や手動式の列車発車時刻案内器など当時を知る人には懐かしい展示が並べられています。

また、名鉄の模型クラブによる鉄道模型レイアウトも人気があり、実際に車両を動かすことができます。

一隅にはバスのコーナーも設けられ、写真パネル等で名鉄バスのデザインの変遷を追っています。

館内は写真撮影が自由、電車の行先系統板など、自分で触って変えられる展示物もあり、自分の好きな行き先に変えて、記念撮影をしていくのも見学者の楽しみの一つです。

資料館受付には、名鉄関連のグッズが売られています。ピンバッジやTシャツ、キーホルダーなどとともに、資料館らしいお土産として、時刻



かつて使われていた出札箱

表の復刻版7種類があり、鉄道ファンだけでなく、実際の資料として使う研究者など、買いそろえていかれるそうです。



名鉄模型クラブによる鉄道模型



行き先の表示を自分で変えられる



お土産用 復刻時刻表

入場は無料、事前に予約が必要

日本ライン今渡駅から徒歩20分（駅に案内図あり）。事前に予約が必要です。

土日祝日は基本的に休みですが、年に数回、事前予約無しで入館できる特別開館があり、名鉄のホームページ上で予定が公開されています。

施設の概要

住 所 岐阜県可児市川合北2-158

電話番号 0574-61-0831

開館時間 10:00～17:00

定休日 土・日曜日、祝日、年末年始、この他
臨時休館あり

URL <http://www.meitetsu.co.jp/shiryokan/>

交通の案内 名鉄広見線「日本ライン今渡」駅下車
徒歩20分、タクシー5分

サービス内容 図書、資料等の閲覧（無料）
館内撮影可

利用方法 事前に電話での予約が必要



教育センターに隣接した名鉄資料館

インタビュー



名古屋鉄道株式会社 教育センター資料館
松永 直幸氏

—名鉄資料館のコレクションはどのように集まったものなのでしょうか？

1961年に「名古屋鉄道社史」を発行した際に蒐集した資料が基礎となっています。その後、1975年に「写真が語る名鉄80年」、さらに1994年に100周年を記念した「名古屋鉄道百年史」を発行した際に、それまで社内に点在して保管していた資料等を一カ所に集め、教育センターに附属して資料館を開館しました。

このように社史を3冊も発行している会社はめずらしく、いずれも郷土資料や鉄道資料として、高く評価されています。

第一展示室では文書等の資料、第二展示室では部品類と、文科系、理科系の両方が揃った資料館というのは全国でもめずらしいと思います。

—どのような方が見学されるのでしょうか。

年間2,000～3,000人ほどと多くはありません。平日のみで、駅から遠いという場所柄、当初から見学者は多くないだろうと想定し、見学は予約制にしています。これまでの資料、これからの資料を保存していくことが目的で、それが社員の教育に役立てばいいし、一般の方のご希望があれば、ご覧いただくというスタンスです。

東海地方を中心に、全国から鉄道ファンの方や、子供を連れた方などがいらっしゃいます。リピー

ターが6割ほどです。

普通に見るだけなら2～30分で終わる小さな資料館ですが、鉄道ファンで隅から隅までみたい人もいて長い人で2～3時間、半日いらっしゃる方もいます。中には、丸1日いた人もいました。

—資料館が附属している名鉄教育センターとは、こういった施設なののでしょうか？

名鉄本体とグループ企業の社員教育に加えて、動力車操縦者資格取得のための養成施設を兼ねています。電車の運転士になるためには、国土交通省が指定した動力車操縦者養成所で研修を受けることが必要で、そうした養成所は全国に36カ所ありますが、名鉄教育センターはその第1号です。名鉄だけでなく、自社で養成施設を持っていない地方鉄道の研修も受け入れています。

—写真撮影が自由なのは理由があるのでしょうか？

著作権上、特に問題となるものがないと判断しているからです。東京の鉄道博物館でも、写真撮影が自由と聞きますし、今後、写真撮影が自由の施設は増えていくのではないのでしょうか

—名鉄資料館のコレクションは現在も増えているのでしょうか？

セントレア開港時のミュースカイのポスターや、愛知万博の際のポスターなど、ちらしやポスター等は、折々に、集めています。一般に販売しているものではないので、その時に、頼んでもらっておかないと、後からでは手にはいきません。

問い合わせの多い吉田初三郎の原画、ポスター等も、できれば入手したいと考えていますが、残念ながら現存するものが少なく、今のところ機会がありません。

もっとも、こうした資料の蒐集は、資料館の担当者が信頼されていれば寄贈などで集まってくるものなので、今後も保管、研究をしっかりとしていきたいと思います。

所蔵資料は3万点以上で、うち切符と写真がそ

れぞれ8,000点ほどあります。新聞社、雑誌社から写真の問い合わせが多いですね。

資料類の他所への貸し出しも多く、歴史博物館や郷土資料館などの企画展に、年間に200点ほどお貸ししています。先日も、常滑線開通95年展という催しが知多市であり、100点ほどを貸し出しました。

一年に2回、夏と秋にある企画展はどのようなものでしょうか？

企画はその時にタイムリーなテーマを選んでいきます。次回は夏に行いますが、今年いっぱいで廃止される犬山モノレールに関する展覧会をやるのかと考えています。

犬山モノレールは日本で最初のアルウェーグ式モノレールですが、2年後に開業した東京モノレールの試験線でもあったのです。東京モノレールの開業に際しては名鉄から100名程の人が行って立ち上げています。当時の先輩から聞き取りもして、これを機に、こうした事実をしっかりと記録しておこうと思っています。

また、最近、犬山遊園駅の物置から初三郎の弟子の稲垣満一郎が描いた犬山モノレールの肉筆鳥瞰図が見つかりました。モノレールの開業を祝したもので、これを企画展の目玉にするつもりです。

企画展の際にテーマにあわせて収蔵品を展示していますが、こうした機会があると、名鉄資料館に何があって、何が足りないのか、所蔵品の整理にもなります。

企画展の期間中特別開館日を2～3日設けています。ふだんは開館していない土日を含めて予約無しに一般公開しています。1日100人前後の入館者があります。

―産業観光のあり方への意見をお聞かせください。

私どもは、100年以上の歴史がある会社で、幸い資料の保存はできていますが、こうした地域の歴史に密着した企業の資料をどう保存・公開していくかというのは、今後も課題になってくると思

います。

ドイツでは、商工会議所が地域の企業の資料を保存している所もあるようです。貴重な資料が失われないように、こうしたやり方が日本でも広がっていくといいと思います。